

## 立正佼成会開祖 庭野日敬先生が遷化

立正佼成会開祖の庭野日敬先生が、十月四日、東京都中野区の佼成病院で老衰のため遷化されました。九十二歳。

庭野先生は黒田方丈ともご縁が深く、善光寺に温かく力強いご支援をお寄せ戴いていました。悲しみは筆舌に尽くし難く、先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

庭野先生は明治三十九年十一月十五日、新潟県十日町市生まれ。人に尽くすことを何よりの喜びとした祖父や、「なるべく暇がなくて給料の安い、骨の折れる所へ奉公するように」という父の薫陶を受け、十六歳の夏に上京。その後、恩師である新井助信先生や長沼政さん（のちの長沼妙佼協祖）との出会いを経て、昭和十三年三月五日、三十一歳の時に立正交成会（三十五年から教団名の「交」を「佼」に改称）を創立。以来、『法華経』に帰依し、慈悲の実践に徹してこられました。「真の平和は宗教心の涵養による以外にない」との信念から、「国民皆信仰」「明るい社会づくり運動」を提唱。また、平和のための宗教協力を国内外において推進されました。日本の宗教者としては世界的な知名度を有しておられる数少ないお一人でした。

葬儀・告別式は十月十日、東京都杉並区の立正佼成会大聖堂で営まれました。なお、平成三年十一月十五日、法燈継承式により長男の庭野日鑽氏が会長位。